

まちの名所・旧跡



いにしへの巡礼の場所

おぐりやまかんのんどう

小栗山観音堂

釈迦堂川、江花川、柿之内、保土原が一望できる、小高い山の続いた所に、切り立った大きな岩が並んでいる所があります。大きなケヤキ、杉が繁ってうす暗く、神秘と言いか霊気ただよふ荘厳なところに小栗山観音堂が建っています。

この辺一体は、昔の小栗山村。観音堂は、今からおおよそ1,270年前、高月左大弁と言つ、偉い方の守り本尊としてつくられたと言い伝えられています。三間四方のお堂の中に、大きな岩があつて、大きくえぐられた洞くつの中には、行基作と言われる十一面観音木仏座像が祀られています。

この観音堂の外に、高月左大弁に関係あるものとして高月大明人、高福寺がありその跡地に、この辺では珍しい亜闇梨の立像があります。

この観音様を信仰すると、どんな願いも必ず叶う不思議な、霊験があると伝えられ、昔から近隣の住民はもちろん、遠くからも信者がつめかけ大変にぎわつたということです。

前九年の役で功績を立てた源有光（後の石川有光）は、石川を中心に、七つの郡を所有していました。石川、岩瀬、安積、西白河、東白川、田村、茨城県の一部です。この管内に三十三の観音を選んで仙道三十三観音としました。

三十番目の札所となつたのが小栗山観音と言われています。